

千葉市新基本計画審議会地方創生部会 第3回千葉市まち・ひと・しごと創生会議 議事録

1 日 時：平成27年11月25日（水） 18:00～20:30

2 場 所：千葉市中央コミュニティセンター 8階「千鳥・海鷗」

3 参 加 者：《委員》12名

栗飯原希委員、大庭正和委員、北村彰英委員、坂戸誠一委員、下村武史委員、
田村哲子委員、辻徳次郎委員、遠山宏幸委員、村尾憲治委員、村館靖之委員、
矢田玲湖委員、吉開真一郎委員

《事務局》6名

稲生総合政策部長、藤代政策企画課長、
柿沼政策企画課長補佐、藤牧主査、加来主査、中村主任主事、積田主任技師

4 議 題

- (1) 会議の公開及び議事録の取り扱いについて
- (2) 総合戦略（素案）における重点戦略ごとの意見交換
- (3) 今後の進め方について
- (4) その他

5 議事の概要

- (1) 会議の公開及び議事録の取り扱いについて
会議の公開及び議事録の公表について、事務局から説明し、了承された
- (2) 総合戦略（素案）における重点戦略ごとの意見交換
総合戦略（素案）について、事務局から説明し、委員が意見交換した。
- (3) 今後の進め方について
今後の進め方について、事務局から説明した。
- (4) その他
議事録の確認について、事務局から説明した。

6 会議経過

～ここから、会議逐語録～

1 開会

【藤代政策企画課長】

ただいまより、第3回千葉市まち・ひと・しごと創生会議を開催させていただきます。委員の皆様方におかれましては、ご多用の折、そしてお足元の悪い中、お集まりいただきまして誠にありがとうございます。

私は本会の事務局を務めさせていただきます政策企画課長の藤代でございます。本日もどうぞよろしくお願いいたします。

はじめに、総合政策部長の稲生よりご挨拶を申し上げます。

【稲生総合政策部長】

改めまして、こんばんは。本日、総合政策局長の川上は別件が重なっている関係で失礼させていただきます。この会議は今回2回目で、雨の中また非常に寒い中、お集まりいただき誠にありがとうございます。今回は説明が主となる中で、ご意見をいただき切れていないのではないかと、それと、次に原案をまとめていく中で、分析等を踏まえ、原案にいかにか千葉らしさを織り込んでいけるかが非常にポイントになってくる、その意味では、現在の素案の段階でさらにご意見やご提案を頂戴し、可能な限り原案の方に盛り込んでいきたいということで、本日開催させていただいたところでございます。本日は委員の皆さんからも資料を頂戴しております。また、前回のご意見はまだ本編に反映しておりませんが、別紙にまとめましたので参考としていただきながら、さらにご意見や議論を深めていただければ幸いです。千葉市の財政が厳しい中、大きな事業費がかかるものを盛り込むことは厳しいところがございます。その辺りはやはり知恵ということで、皆様方のご意見を拝借できればと思いますので、本日もどうぞよろしくお願いいたします。

【藤代政策企画課長】

続きまして、北村部会長よりご挨拶を頂戴したいと思います。よろしくお願いいたします。

【北村部会長】

今稲生部長からお話がありましたように、前回の会議は素案を説明いただいた後にコメントを述べましたが、その時間が非常に短かったので、今回は意見を出していただくことにいたします。今回は終了時間が20時半と、前回より30分長くなっています。主として、総合戦略を議論させていただき、人口ビジョンについては、次回市民等アンケート結果が出された後に、それをもとに議論することになると思います。それからもう1つ、各委員の方は専門分野をお持ちですので、その専門分野に基づいて、市と専門分野がどのように連携していけば良いか、あるいは千葉市と他市との協力関係はどのようなものがあり得るかなど、連携事業についてもぜひご提案いただければと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

【藤代政策企画課長】

ありがとうございます。それでは、以降の進行につきましては、北村部会長にお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

【北村部会長】

最初に会議の成立についてご報告申し上げます。本会議は委員定数12名のところ全員が出席しておりますので、千葉市新基本計画審議会運営要綱の第4条第2項により成立しております。

2 議題

(1) 会議の公開及び議事録の取り扱いについて

【北村部会長】

それでは、お手元の次第にしたがいまして、会議を進めさせていただきます。これより議題に入らせていただきます。

議題の1「会議の公開及び議事録の取り扱いについて」でございますが、事務局から説明をお願いいたします。

【藤代政策企画課長】

会議の公開及び議事録の取り扱いについてでございますが、千葉県情報公開条例第25条の規定に基づきまして、附属機関の会議は原則公開となっております。本日の会議内容につきましては、非公開とすべき事項はございませんので、会議は公開として、出来上がりました議事録につきましても、公表させていただきたいと存じますので、どうぞよろしくをお願いいたします。

【北村部会長】

ただいま事務局から説明がありましたように、本日の会議は公開、議事録は公表ということで。ご異議なければ、そのようにさせていただきたいと思っております。よろしくをお願いいたします。

【委員一同】

(異議なし)

(2) 総合戦略(素案)における重点戦略ごとの意見交換

【北村部会長】

続きまして、議題の2「総合戦略(素案)における重点戦略ごとの意見交換」に移らせていただきます。第2回会議で事務局から提示いただきました総合戦略の素案につきまして、委員の皆様方から1～7までの重点戦略ごとにご意見を頂戴したいと思います。なお、村館委員からは重点戦略2について、栗飯原委員からは重点戦略1～7についてご意見が出ていますので、お手元に資料があると思います。村尾委員からもメールでご意見が出ていますので、重点戦略1～7ごとにご意見を頂戴する際に発言していただければと思います。

総合戦略の素案に基づいて進めさせていただきます。はじめに私がぜひ言いたいのは、72ページの都市経営の3方針について、「Ⅲ 圏域を支え、活力の中心となる、自立した都市へ」を1番目に持って来たいということです。かつ、圏域ではなく千葉圏域として、千葉というものを主張したいということです。戦略は各都市で作るものですので、千葉を前面に出しておかないと埋もれてしまいますので、ぜひ考えていただきたいと思います。

それでは、78ページの重点戦略1「東京圏において独自性を有する圏域“千葉”でわたしたちが果たす役割の追求」から、ご意見のある方は挙手をいただいて、1戦略につき20分程度を目安にご意見をいただきたいと思います。よろしくをお願いいたします。

まず、資料を提出された栗飯原委員から説明をいただけますか。

【栗飯原委員】

最初に私が作った資料「6区6色の千葉市へ」を説明したいと思います。総合戦略を読んで、どれも必要だと思いましたが、まちづくりをするに当たって、高齢者に優しく子育てしやすいというのは、どこでもできるものではないと思っていて、資料1ページの図に示したように、例え

ば、中央区は経済に特化したまち、緑区は自然豊かなまちなど、一つひとつの区が特徴を持って強みを出していく必要があると思って、この資料を作りました。

重点戦略1に関しては、千葉圏域を引っ張っていくのが千葉市ということで、この戦略が掲げられていると思うんですけども、その中で私が必要だと思ったのは、教育と観光分野です。1つは、千葉市の子どもたちが南房総などの自然豊かな漁村や山村に留学して、逆に、周辺自治体の子どもたちがマリスタジアムで野球観戦をしたり、千葉市の海辺などで遊んだりするような体験ができれば、圏域を引っ張っていくことにもつながると思いました。

あとは千葉県全体として観光のイメージがないと思ったので、「着地型観光」といって、地域ごとに、地域の人がプランニングした観光をつないでいって、千葉市がPRしていくことが必要ではないかと思いました。

【北村部会長】

私も着地型観光に賛成で、千葉市を千葉県の観光のハブにすべきではないかということです。千葉市が今観光で問題になっている部分というのは、千葉市内で観光や買い物をしてくれない、ただ宿泊しただけで帰ってしまう、移動してしまうということが言われる。そうではなくて、千葉市を、中で観光するというよりはハブにしてしまうと。ここから房総半島に行くとか、今ご発言のあった地域の観光と結びつけるような働きを、千葉市はできるのではないかという気がしています。他にいかがでしょうか。

【坂戸副部会長】

栗飯原さんのお話を聞いて、住み分けはとても素晴らしいと思います。私自身は花見川区に住んでいて、大きな団地がたくさんあり、以前は子どもがたくさんいました。しかし、今は子どもというよりは、それを産んで育てた年寄りがたくさんいます。栗飯原さんのおっしゃったようにしなければならないと思っていますが、そのためには行政と民間の開発業者が一緒になってやる必要がある。前回の資料に、終の棲家という言葉がありましたが、日本人はこの感覚が強いのですね。若い時に住んだら死ぬまでそこにいて、そこが終の棲家になる。だから段階的におかしくなってしまうのです。やはり、地域の特色を活かすためには、その世代の方が安易に移り住める、不動産をシェアして、あるいは転売して、年をとった我々は次の特色ある地域へ移ると、こういうような社会構造をつくる段取りが必要です。ずっと住み続ければ、そこにある資産は30年もすれば駄目になるので、循環的に活用していくためには人が移動することです。まち・ひと・しごととは、常に人が中心なんです。ひとがいなかったら、仕事をいくらやろうとしても駄目。働く人がいれば企業が来るし、商業もできるのです。また、そのまちに向いた人がいるから、まちが発展していくわけで、やっぱりひとが真ん中にいなければならないんです。ひとが真ん中にいるためには、まちが自由に移動できるような社会構造をつくり上げていかないと難しいのではないだろうかと思いました。

【北村部会長】

そうですね。若葉区の出生率が低い理由なぜなんだという、あそこは古くから開発されて、住民の年齢が高くなったからと言われていています。だから、まちがいつ出来たかでみんな決まってしまうと、今の千葉市はそういう感じがします。今のご意見のように、うまく回していける環境を作っていければ良いのかもしれないですね。他にご意見いかがでしょうか。

【大庭委員】

全体で見れば、坂戸さんがおっしゃった傾向はあるかもしれませんが、私の住んでいるところは、父の世代も、私もここで子育てをしています。環境によっては、代々ずっと生活史を繰り返してできるまちも考えられるのではないのでしょうか。都市開発を一時にやってしまうと、同じような世代が入ってきますが、ライフサイクルが微妙にずれていけば、安定的に子どもがいて、家族を持って戻ってくることもなります。一概に強制移住がどうかということではなく、根っこを下ろしたまちづくりというものも考えて、一括りにするのは乱暴に感じました。ヨーロッパには古色蒼然とした街並みがあって、これは一つの典型だと思いますし、京都も代々の住まれ方がありますので、全部が全部ということとも違う気がしましたので、意見を述べさせていただきます。

【北村部会長】

私が住んでいるところの隣は、確かに子どもが独立して、その後子どもが家庭を持って戻ってきています。これはある意味、田舎なんですね。それができるのは、おそらく千葉市に職があつてうまく回転できているからで、これが東京を主にしていると、子どもたちはそちらがメインになってバラバラに住むことになってしまう可能性があります。本当はうまく戻ってきて、次の世代が育ってくると、千葉が引き継がれて、良いまちになるのではないかと。これはまちをつかった時、どういう人が住むかで、かなり変わってきてしまいますね。

【村尾委員】

今年、国勢調査で美浜区の団地を担当しましたが、私は緑区のおゆみ野に住んでいるので、全く風景が違いました。1つの括りで500世帯という団地で、すべて5階建て、エレベータなしで、かなりの空き家がありました。調査中には、ゴミを抱えて階段を一段ずつ降りるような年齢の方を見かけました。この500世帯の団地がいくつもありますので、これが20年後、25年後どうなっていくのだろうかと感じました。

今回のテーマになると思いますが、区別の人口を読み、戦略を立てる時に、6区6色で状況が違いますので、例えば、緑区は若い世代を東京から引っ張って社会増と自然増の両方を狙う、同時に、美浜区でも大きなリノベーションで、今あるエレベータなし5階建てを変えていくような計画があるとすれば全く新しいシナリオを描ける可能性があるということで、各区の特色は非常にあると思いますので、それらの特色を、市としてどういうふうに戦略的に考えていくかが面白いと思いました。

【北村部会長】

今おっしゃられたように、美浜区は年寄りが残っていて、同時に、粟飯原委員の資料では新技術という書き方をされていて、すごい2面性を持った区なんですよ。

【村尾委員】

幕張など、そういうところですね。

【北村部会長】

あそこで、今度の新開発が始まれば、またがらっと変わるでしょうね。

【大庭委員】

私が小学校の頃から埋め立てが始まりまして、今当行がある場所は海だったのですよね。幸町は非常に新しい活気のあるまちだったのですけれども、今になってみるとそういう状況になってい

ます。おそらく当時の開発にコンセプトがなくて、とりあえず戸数だけを供給すればよいということで進めてしまったので、花見川団地なども然りだと思えます。急に迫られて作ってしまったという感じで、持ち家政策の結果なのかなと思われれます。それから、銀行的な感覚から言いますと、集合住宅の建て替えはほとんど無理です。ようやく船橋で1つやれたところで、マンション法などが改正されて、賛成数が少なくてもよくなりましたが、現実的には費用の問題も然り、強制移住もなかなかできないところもありますし、古くなると所有権自体がどうなっているのか分からない場合もあります。行政も幸町団地を建て替えてくれと言われても困ってしまいますよね。

【稲生総合政策部長】

おっしゃる通り、千葉市はベッドタウンで人口急増してきましたので、郊外型の団地、特にURの割合が非常に高い都市です。幸町、臨海ニュータウンなど、まさしくこのリニューアルをどうするかということで、市でも団地再生リニューアルの助成制度を設けていますが、なかなか合意に至らない状況があつて、リニューアルは大きな課題となっています。市単独ではなかなか動けない話ですので、UR等と共にという部分がありますが、一気に難しいことです。当然居住されている方もいらっしゃる中で、建て替えるタイミングで、あるいは、そういうところに、いわゆる生活機能を入れ込むといった動きになっているのが実際のところかと思えます。しばらくこの問題は続くような形かと思っています。

先ほどの6区の話で、区の特徴を明確に示せるかということはある中でも、市では基本計画を区ごとに作っていることはあります。ただ、非常に悩ましいのは、区ごとの人口分析もする中で、特徴を活かしてというのは、「千葉市全体の特徴」の捉え方もあると思えます。なかなか区ごとに重点的に何かすることは、行政として難しさがあるので、どういったことを示せるか考えていきたいと思えます。

【北村部会長】

重点戦略1を見ると、79ページに地域連携の具体的事業がありますが、なんだか頼りないというか。ここで、地域連携でこんなことをやったらどうかといった意見はありませんか。1番目が総務省委託事業、2番目と3番目はハローワークなどで、あまりパツとしない感じがします。

【遠山委員】

周辺自治体との地域連携事業数をKPIに設定していて、1つめの事業は総務省委託事業で何とかやりようはあると思えますが、後の2つはあくまでも一緒にやると書いてあるだけで、そもそも連携効果が出るのか、これをやることによって若い人が戻って来ると見通されているのかなと思いました。地域連携や広域連携は、例えば両隣の市町村とやった方が、効果が上がるようなもの。一般的に言われるのは観光ですよね。千葉市のこの資料には観光が出ていないようです。先ほど栗飯原委員が言った着地型観光と、それから千葉市は政令市で都市型観光を進めるしかないわけで、周辺市と連携して、別に両隣でなくても例えば成田だって良いわけですね。成田から人を運んで来ることを考えると、幕張一点勝負で人を連れて来るために何をやると打ち出した方が、ハローワークやジョブコンよりは目立つのではないかと思っていました。

それをKPIで地域連携事業数と設定してしまうと、こういう連携が何年後にいくつ増えたということは出るのでしょうけれど、連携したのは良いが、その効果をどうやって検証して何がどれだけ増えたのかということになると思うので、この部分では、卒業生が千葉市に何人戻って来て、何人就職してくれたということになるのかもかもしれませんが、たぶん地域連携や広域連携はそ

ういうことではないだろうと思います。他に良いアイデアがあれば使ってもらうのが良いと思います。

【藤代政策企画課長】

広域連携のお話を頂戴しまして、実際に千葉市はこれまで広域連携の事例が非常に少ない状況でした。今後は外側に我々の情報を発信し、逆に情報をいただきながら、割り切った言い方をすれば、Win-Winの関係を築かなければならないと思っています。その中で、広域というのは、我々が目的地化するとともに、先ほどおっしゃっていただいたように、ハブ化して目的地に辿り着くまでを繋いでいく役割も考えられると思っています。加えまして、今、他都市と話を始めていまして、経済分野でどれだけ連携できるか、あるいは千葉市は13の大学があって人材育成部分では機能を抱えている都市ですので、こういったものを外側に滲み出させていくことはできないかということで進めさせていただいています。ただ、この広域連携についてはKPIにするのが非常に難しいので、もう少し時間をいただいて考え方をまとめさせていただきたいと思います。

【北村部会長】

期待しています。Win-Winの形にしなければならないので、例えば市原市が、千葉市だけ得するような連携はおそらく結んでくれないので、けっこう時間がかかりそうですね。

【藤代政策企画課長】

市原市と先日話をさせていただいた際には、今回の人口ビジョンと総合戦略を作る上で、弱い部分が見えてくれば、そうしたところで、それぞれの力をうまく繋ぎ合わせることができればという話をいただきました。そうしますと、今回の総合戦略に入れ込むことができるかは微妙なところだと思っています。ただ、これを端緒としながら先に進むことは絶対やらなければなりませんので、仮に今回まとまらないとしても、きっかけとして進めていきたいと考えています。

【村尾委員】

私は市原市との境に住んで20年になりますが、UNIMOやイオンができて商業的にも良くなって、なおかつ幼稚園でも親が市をまたいで交流している状況で、URもシティ&シティというコンセプトで市原市と一体的に開発しているようです。東京から若いカップルを引き寄せるといったテーマを1つとって、そこで連携して、もう少し効率的に強いPRをするのも1つだと思います。

【北村部会長】

重点戦略2に移らせていただきます。「都市の活力を支える産業の振興と人材の育成」ということで、施策1～5までになります。資料を事前に提出くださっている村館委員、お願いいたします。

【村館委員】

総合戦略81ページの「IT・クリエイティブ、食品・健康生活実現型、先端・素材型ものづくり関連分野の産業集積を強化していく」という記述に関連して、千葉市のICT企業の立地について調べさせていただきました。平成24年経済センサスー活動調査によりますと、千葉市の情報通信業は、主に中央区と美浜区に、事業所数や従業員数が大きい企業が集中していることが分かります。ICT企業に分類される産業区分としては、郵便、固定電話、携帯電話、無線、I

S P、放送、情報サービス、インターネット付随サービス、映画・テレビ制作、新聞、出版、ニュース供給などです。千葉市のICT企業119社の立地構造については、2014年法人電話帳データによれば、中央区の千葉駅周辺と、美浜区では幕張テクノガーデンとワールドビジネスガーデンの二大ビルの辺りにICT企業が集中していることが分かります。これは駅前など交通の便が良いところに立地していると言えます。これから、千葉市でICT企業を伸ばすためにヒアリングをする場合に、どういうところに集中して聞けばよいか参考資料として作成しました。

【北村部会長】

おそらく幕張がICT企業が集まっていることで日本でも有数の地域だと思うので、これを市としてどのように活かすかということで、人材を供給しなければ大きくなりませんので、ここへの人材供給を図っていく。村館委員がおっしゃったように、ここをターゲットとして、ピンポイントで人材を与えていくような仕組みを考えていくこと、それから情報を得ることが必要だということだと思います。栗飯原委員はいかがですか。

【栗飯原委員】

資料の4ページなんですけれども、私が提案したのは、施策5の「地域経済を支える人材の育成」の分野です。去年まで就活をしている中で、千葉市の企業に出会う機会が少ないことをすごく感じました。私の大学では、わかちばとって、外語大、千葉大、東邦大の3大学の学生と、千葉市の経営者の方が交流する機会がありまして、それに参加している学生がいたくらいで、他の学生はあまり千葉市の企業に目を向けていないと感じました。それを打開するために、都内には知るカフェという、企業と学生が出会う場を設定しているところがあるので、ただ就活イベントを開くだけでなく、市が交流の場を設定したり、こういう場をつくる企業を誘致することが必要だと思いました。

2つめに、私は環境政策の研究室で緑地の分布状況を研究しているのですが、学生が研究テーマを決める時に、市に協力してもらえればスムーズにできることもありますし、市としても調査費用がそれほどかからないというメリットもあると思いますので、市から大学の研究室などに調査協力を働きかけたら、お互いにWin-Winの関係になれるのではないかと考えて、提案させていただきました。

【北村部会長】

最初のご意見は、総合戦略素案84～85ページに関するものですが、私はこの部分に非常に不満を持っています。インターンシップ促進など通り一遍のことが書かれていて、これでは千葉市内にある大学の学生が、千葉市内に就職することにはならないと感じています。千葉市の大学はクセがあるところが集まっていて、淑徳大学はターゲットを完全に絞っているし、千葉工業大学や東京情報大学もそうです。東京情報大学はICT企業だけにターゲットを絞って就職させても構わないくらいです。ICT企業に行きたくない学生は無理して行くことはありませんが、例えばインターンシップなど全体的なことで千葉市が旗を振るのではなく、東京情報大学とICT企業、淑徳大学と介護事業者、敬愛大、千葉経済大学とディーラーというように。卒業生が多く行っている企業があるはずなので、ピンポイントで就職を支援していただきたいと思っています。と言いますのは、千葉市も関係しているかもしれませんが、合同企業説明会では県内の全大学を呼んでいて、学生は関係ないと思って出てきませんし、他大学と一緒にでは合わないなど色々考えてしまいますので、きめ細かくやっていただきたいと思います。他にいかがでしょうか。

【辻委員】

やはり産業育成をするには中小企業をどう育てていくかが非常に大きなポイントになると思います。振り返ってみますと、前回のデータ分析の中でも出ていましたが、千葉市は鉄鋼業が入ってきて、格段に人口が増え、経済も活性化したという歴史がある中で、今は俗に言う大企業で働いている方はごくわずかで、多くは中小企業で働いていらっしゃいます。経済を支えるのも、人材を育成するのも基本的には企業の責任だと思っていまして、企業がどう元気になるかという側面を考えていかないと、行政では立ち入る深さが限定されてしまうと思います。だから行政がやるべきことは企業を育てることで、企業が経済を支え、人材を育てていくという考え方も必要だと思います。そういった意味では、81ページにある施策2の事業「中小・小規模事業者ニーズ対応型支援」は、ちょっとこれだけでは内容的に不満足なので、もう少し充実した内容に切り替えていければ良いのかなと思っています。

【北村部会長】

おっしゃる通りですね。施策2のところで、KPIや具体的事業などをもう少し形を変えて、例えば創業支援や中小企業の支援などを、市が直接どれだけ支援していけるか。あくまで主体は企業で、市がバックアップする形で応援していくことが分かるように。KPIとしてはどれくらい支援したかになると思っています。特に、KPIの2つめ「交流会によるマッチング件数」は無理ですよ。中小企業に交流会でマッチングをさせようとしても、そんなにできるものではない。交流会はおそらく大学を考えていると思いますが、大学の研究者は大企業を見ているので、中小企業を支援するように発想を変えてもらわなければなりません。簡単にはマッチングできないので、きめ細かく支援していく形にしなければなりません。このKPIはもう少し違ったものにしていただきたいと思えます。

【坂戸副部会長】

千葉市、千葉県の両方とも我々中小企業が立地するには素晴らしく良いところです。何が良いかという、まず土地があって高くない、人がいて高くないということです。それで企業が少ないので競争が少なく、行政から支援をいただけるチャンスがたくさんあります。中小企業が立地するにはとても有利な地域。

ただし、都市部の企業が千葉へ越して来ることに何か抵抗があることだけは確かです。何とも言えませんが、都市部の企業は色々想像して、なかなか立地が進まないということはあると思いますが、来ればものすごく良いんです。中小企業の80%以上は、50人以下の小規模企業ですから、教育するシステムなんて会社には無いんです。磨けば光ると言っても、磨くことが難しいので、マッチングによって一定のキャリアを積んだ方に来てもらうのが小規模企業の常套手段というてよいと思います。千葉市、千葉県とも来れば手厚いんです。私どもも市にお世話になって、固定資産税などが5年間も無料でよいということで投資のチャンスにしています。

1つ千葉市が企業を呼んでくるのに足りないことは、先ほどの連携と同じになりますが、千葉市産業振興財団でソフト的なご指導を色々やってくさるんですけれども、県のいわゆる工業試験場などハード的なものが千葉市にはないんですよ。だから、県などと広域に連携して、ご指導いただくともっともっと助かるのではないかと思います。また、こんなに良いことがあるということが、千葉市の一部企業には行き渡っていますが、東京や神奈川の企業には伝わっていないのではないかと思います。その辺のご努力は必要だろうと思えますので、自信を持っていただいて、

千葉市の色々な産業政策をもっと投げかけて、彼らが持っている何らかの不安を溶かせば、たくさん来ると思いますよ。私はこんなに素晴らしい地域はないと思っています。

【北村部会長】

千葉市の支援はかなりきめ細かいと私も実感しています。田村委員は、いつも千葉市は良いとおっしゃいますが、ここが足りないといったことはありませんか。

【田村委員】

良いところしかないんです。私が商売を始めた時は全くお金がなかったので、千葉市に相談しましたら、開業資金100万円を借りることができてからは、順調に営業することができました。ただ店を作った場所が八千代市だったので、これからお返ししたいと思います。

【大庭委員】

部会長の発言に賛成しています。実は、先週UR千葉から当行に説明に来られまして、内陸の工業団地が品薄で飛ぶように売れている、土気の工業団地は10年前まで疎らだったのに区画が無くなったそうです。木更津の山奥まで、さらには、おゆみ野の住宅の売れ残りも、潤井戸の方までも売れに売れていて物件が無いくらいだと聞きました。この傾向というのは、震災後に湾岸部にあった工場などが引っ越してきたということ、それから、市川や東京の下町などの工場跡地にマンションが建って、工場をできなくなった結果として、千葉なら土地が安いし、インフラも整っているということが出てきていると聞きました。そういった意味で今は後ろから風が吹いている時だと思います。行政はPRが下手で、これだけ良いものがあるって、使っている方が感動しているのに、どうして自信を持って言わないのかなと思います。当行でも創業支援の枠を広げていこうとしていますので、もっとアクティブにPR活動をして良いのかなと思います。

先ほどICT企業が集積しているという話がありましたが、幕張メッセは交通が不便なんです。千葉市の真ん中に住んでいる人が行こうとすると、幕張本郷でバスに乗り換えないとなりません。あれだけのものを作ったのに、インフラが出来ていないということで、賛否両論はありますが、第二湾岸を通すだとか、横浜のように地下鉄でまっすぐ繋ぐという発想、本来はモノレールが通るはずだったという話もあります。縦の線が非常に不便だと感じますので、ICT連携をするにも、行政の中心である中央区と幕張メッセ辺りの交通網を繋ぐことを考えると、県内の企業がもう少し自由に行き来ができるようになって感じます。

それから、前の話に戻って恐縮ですが、県のハブになりましょうという話で、私は成田、柏、船橋の支店長をしましたが、あの辺りの人は東京の方しか向いていません。ですから、あまりあちら方面を意識するのではなくて、逆に東総方面など千葉市を通らないと交通などが成り立たないところを積極的に支援し提携する。南房総は木更津辺りが横取りしようとしているような気がしますが、そういった戦略的なものも、全部幅広でやるのではなくて、具体的に進捗があるものから手をつけていった方が実効性があると思います。利益感がないと事業主体はなかなか続けていけないと思いますので、ポイントを絞って、その成功体験の上に幅を広げていけば良いのかなと。どうしても総花的に書いてありますが、あまり欲張らないKPIでも良いのかなと思います。

【吉開委員】

戦略については皆さんのおっしゃる通りだと思います。昨日NHKの首都圏ニュースで、厚労省が初めて、都道府県別、産業別に将来の労働力について推計し、経済成長率が低い場合2030年には全国で800万人減るという結果を公表したとのニュースをお伝えしました。これは大

変なことだと思えます。すべての都道府県で人口減少を上回るペースで働く人が減るということに衝撃を覚えました。千葉県の場合はおよそ40万人が減るという推計です。都市部で減少が目立つのはサービス産業で、卸売・小売業は東京で24万人余、大阪は23万人余、神奈川で19万人余減るだろうということです。千葉局では、千葉県で農林水産業就業者が1万2千人減るとの推計を受け、農業の現場取材しました。私が何を言いたいかというと、総合戦略について皆さんがおっしゃったことはすべて良いと思えますし、ICTの誘致を含めてやった方が勿論良いと思えますが、前回も申し上げましたが、雇用の確保が重要。さらに重点戦略2の「都市の活力を支える産業の振興と人材の育成」に加えて、労働力の維持、確保という書き方をしないのではないのかということです。ニュースを見て予想以上に労働力は厳しいという印象を受けました。かつ都市部のサービス産業の労働力は減るということで、具体的にはホテルや飲食業に人材がいないので、休業日を増やさざるを得ない状況のようです。今回の千葉市の地域経済分析では、サービス産業従事者が85%と多いので、危機感を持った方が良く、重点戦略2の重要性を改めて感じたところです。

加えて、労働力が無い中で、女性や高齢者の活用が今後必要になってくるということで、重点戦略3や4と重複するかもしれませんが、重点戦略2の中にも、この視点を入れていくことが必要だと思います。

ICT関連で言いますと、例えばQVCのような情報通信業は、幕張でなくてもできる産業ですが、あえて幕張を選ばれた理由を企業にヒアリングしてみて、それも参考にしながら融資や優遇策を取っていくことが重点戦略2で大事ではないかという気がします。厚労省の推計に関しまして、市の方からもご意見があれば聞かせていただきたいと思えます。

【稲生総合政策部長】

前回、人口ビジョン素案の「人口減少が千葉市の将来に与える影響」でお話しましたが、労働力人口等については、いわゆる経済成長があって、女性と高齢者の労働参加が進むという厚労省のデータを用いてシミュレーションをしてみたもので、果たしてこれで良いのかはまだ分析が必要です。どれだけの人口減が特に労働力に大きく影響するのかということで、ある面、現実に近い数字をお見せする、それは人口減とそれに伴う影響がこれだけあるということ、行政の我々だけが騒いでも仕方がないので、ビジョンや戦略を作ると同時に、今後こういう状況が起こることを皆さんにお伝えすることが非常に重要だと考えています。実際、戦略の中では雇用の部分がやや弱いと思っています。目標やKPIでさらに追加していかなければならないと考えています。今、千葉市にどういった企業があるか、これに学生が触れる機会がない、子どもの教育やキャリアアップの中でも触れる機会がないので、そういうところから、具体的には大学と企業と市などが1つのテーブルで、求める人材やそれに対する教育について話し合う場を近々立ち上げようとしているところです。雇用のミスマッチ的なところは市長も言っていますので、1つずつ積み上げていって、ある程度時間はかかりますが、動き出しをしていることは間違いないところです。

【村尾委員】

それに関連して、私も全く賛成で、労働力が減ることへの健全な危機感をもっと出した方が、結果的には良い議論や施策の検討ができるのではないかと感じています。84ページで人材の育成の話がありますが、現在は1,400人の外国人留学生が在学していて、ほとんど帰ってしまう状況です。先日、新宿のハローワークで外国人卒業生のための就職面談を見学したところ、中

小企業や運送業、サービス業などとマッチングしていて、毎日300人くらいの人に来て盛況でした。埼玉県でも外国人留学生のジョブフェアがあります。千葉市にはせっかく13も大学があって、留学生がけっこう多いので、情報がなくて帰国させてしまうのではなく、しっかり受け止める。まさにMICEもそうですし、東京オリンピックもあって、外国語のネイティブの人材を欲しがると企業もあると思うので、そういったこともKPIや具体的事業に少し入れていただいても良いのかなと思いました。

【藤代政策企画課長】

留学生のマッチングについては、私どももそれなりに意識しているところです。昨年、大学の学長と市長との会議でも、留学生は非常に高い能力をお持ちですので、それを活かそうとモデル的にやってみましたが、1回目のモデル事業としてはマッチングがうまくいきませんでした。ですので、今お話いただいたことや他の事例も含めて考えてみたいと思います。

【矢田委員】

これまでのご意見は全くその通りだと思います。現在の千葉県内の雇用情勢は非常に良く、高卒求人は去年の10%増でいただいておりますし、それも充足できていない状況で、かなり人手不足感が強くなっております。その中でも人が集まる企業というのは、従業員を大事にしている、働きやすいいろいろな制度を備えている事業所は人材を確保できております。これから労働力人口は間違いなく減少していきますし、当然外国人の方、女性、高齢者に参加していただかなければいけないわけですが、今までの働き方で、こういった方々が能力を発揮して働き続けられるかということ、なかなか難しい状況がありますので、KPIとして入れるのは難しいと思いますけれども、多様な働き方を導入する企業の数を増やしていただくとか、厚労省のくるみん企業や、若年者雇用促進法に基づく若者の採用や定着促進に取り組んでいる認証企業も増やしていきたいと思いますので、国の制度もご活用いただきながら、具体的な施策につなげていただければと思います。

【下村委員】

銀行の立場から、企業立地の面で千葉市は素晴らしいという認識を持っています。ただ、助成や補助につきましては、営業マンが武器とする形で、お客様に当たって、知らなかったという声を聞くことが多々あります。そういうことを教えることで、メインでない銀行から引っ繰り返すこともできます。千葉市の優れている制度をもう少し情報発信し、武器として全面的にPRする必要性を感じます。日本を代表する大手事業者が、佐倉市との境に大きなパークを作っていて、企業立地のための情報提供を依頼されることがあるのですが、間に市境が入っていて、同じパークの中で千葉市と佐倉市とでうまく分かれる。千葉市側と佐倉市側どちらが売れるかということ、助成の関係で千葉市側が実際売れているという事例もあります。こうしたことを全面的にアピールすることがもっと企業立地に繋がるのではないかと、営業しながらつくづく感じているところです。

【北村部会長】

重点戦略3に移らせていただきます。前回、遠山委員から「結婚」が最初に入るべきではないかという意見がありました。「結婚」を入れると結構中身変わってしまうなという感じもありますが、それは考えておいていただきたいと思います。

結婚というと、すぐ婚活と言われますが、私としては違うなという感じがしていて、結婚できるような職がないと、不安定では結婚できないですね。結婚できるような生活基盤を市民に与えるような状況を作らなければならないと思います。細かく書かれていて、千葉市がけっこう力を入れている分野ですが、いかがでしょうか。

【坂戸副部長】

87ページの具体的事業に「三世代家族同居の支援」とあって、ほんわかしたようなイメージはありますが、これは本当に現実的な仕事なのでしょうか。これがそんなに大きく波及することなのか疑問なので教えていただければと思います。

【稲生総合政策部長】

今年から始まった第2次実施計画より前から事業として実施しているもので、同居と近居にかかる引越し代を一部助成するというので、それと言いますのは、祖父母がいて孫の面倒をみられる環境を、という形で「子育て」の中に入っていますけれども、一方である程度お子さんたちが大きくなったときには、子どもが父母の面倒をみられるという意味もあります。今実績値は分かりませんが、利用されているところではあって、国交省でも同じような形で進めるということです。

【藤代政策企画課長】

追加的に説明しますと、富山辺りの就業構造を見ても、三世代同居している方が女性の労働参加率が高くなっていて、そうしたところも、国が施策を作る上であるのではないかと考えています。千葉市は、入り口としては、高齢者の孤立支援と子育て支援の部分から入ったわけですが、国の動向も見て必要な制度改編があれば変えていかなければならないと思っています。ただ富山などではうまく回っているようで、住環境の問題も絡むことは承知していますので、千葉市に合った形に今後は変えていく必要はあるのかなと考えています。

【大庭委員】

年寄りが孫の面倒をみるのが当たり前という決め付けはいかがなものでしょうか。国の施策は要するに面倒をみさせようというのが見え見えですが、年寄りだって自由に飛び回りたい人もいますし、人生を楽しみたいと思います。それに、そもそも富山とは住宅の広さが違いますし。

【遠山委員】

これは必然的に人が増えるのではないですか。

【稲生総合政策部長】

人を呼び寄せることで増えることになります。あくまで選択肢の1つで、今は同居という書き方になっていますが、「近居」も含めてということです。

【大庭委員】

国でも色々と現実的には効果がないだろうというものを、プロパガンダ的に先行させているところがあるので、我々の世代もそうなのに、次の世代は必ずしも一緒に住むのを幸せと考えないような人たちが出て来ると思います。それを明治時代の民法に照らして二親等以内のものが全部面倒をみななければいけないといった考え方はそろそろ改めて、行政がしかるべきコストを取ってやっていくという発想にしていかなければならないと思います。

【稲生総合政策部長】

この事業は始めて約3年になるもので、おっしゃる通りライフスタイルが変わる中で、未来永劫やるかは別問題であって、やはり推移を見る中で段階ごとに考えていくということです。

【辻委員】

私はこれはありだと思います。これから人口が減り、子どもが減り、空き家が増える中で、同居でなく「近居」という言葉を使えば十分ありだと思っています。私たちの世代ですと正規で終身雇用が当たり前の時代でしたが、今の子どもたちは非正規雇用も共稼ぎも当たり前で、仕事や子育てしながら、自分たちの時間をつくるためには、3世代は非常に有利なんです。ただ住環境の問題があって、一つ屋根の下にはなかなか住めないのが、近居という言葉を入れてもらえればありだと思います。現に、千葉県でも館山や君津など地方の地域の出生率は上がっていて、それは産婦人科や病院ができて、祖父母に子どもの面倒をみて貰って、働く環境が整えば、子どもを産んで、多少収入が減っても共稼ぎでカバーできるといった発想で増えている状況もあるのです。いずれにしても、空き家が増えるので、どう活かしていくかも地域の活性化に大きく影響すると思います。

【坂戸副部長】

前回の矢田委員の発言で、千葉県は70歳くらいまで働ける企業の割合が日本で4番目と聞いてすごいいました。先ほど言ったように労働力はどんどん減っていて、我々中小企業では、60歳、65歳の方が、例えば70歳、75歳まで人生の総決算のつもりで手伝ってくれる、アクティブシニアの方がこれから重要な労働力になると思います。その世代の方たちは、取り扱い説明書で育っていないので、自分で勉強して理屈をつけ腕を磨いてきたので、我々のところに来て働いてもらえれば素晴らしいと思います。子育ても良いですが、シニアの方が75歳くらいまで働いていただける千葉市にしてもらえば、労働事情はもっと良くなると思います。そういう見方をすれば、家にいる人への支援も良いですが、アクティブな方たちにも支援をしてもらいたいと思います。

【北村部長】

重点戦略4に移ってよろしいでしょうか。次は「超高齢社会を支えるまちづくり」ということでご意見いかがですか。

【大庭委員】

知人の医者と言うには、もはや今の医学というのは、病気になったら治す術はいくらでもありますよ、ただしお金がかかります、ということになっている。ですから、これからの医学は、アメリカのように病気にならないためにどうしたらよいかを、公衆衛生で前面に押し出さないといけないということです。高齢者をどうするかというのも1つの議論ですけれども、高齢になっても健康で自立して生き甲斐を感じ生活できるように、予め健康管理やメンタル的なサポートも含めてやっていくという要素を、もう少し強く入れても良いと思います。今の記述は、在宅介護や認知症の人をどうしようかという内容になってしまっているので、病気にならないようにする策に力を入れるのも、他と違って良いと思いますが、いかがなものでしょうか。

【北村部会長】

今の大庭委員の発言で気づきましたが、ここに未病という言葉が入っていませんね。未病は流行りなのではありませんか。

【稲生総合政策部長】

実は、未病という言葉は神奈川県で専売特許的に使っていて、定義は微妙なところが多分にあると思います。これを施策2では、健康寿命という言い方をしているところです。順番はどちらが先ということはありませんが、2025年問題等を含めて、やはりその時に在宅でという地域包括ケアをどう組み立てていくかということと、健康寿命の2つは柱になるだろうとは思っています。

【遠山委員】

順番を入れ替えて、施策の2を先にした方が良いのではないですか。

【大庭委員】

施策の2も、ラジオ体操をやりましょうということではなくて、もっと澁瀬と元気になりましょう、ということになりませんか。

【稲生総合政策部長】

実際メニューは具体的に浮かんでいないのは事実でありますので、何か良いものがあれば検討したいと思っています。

【藤代政策企画課長】

この順番にしている経過だけ説明させていただきますと、国が大都市に求めている高齢者対策の中で、地域包括ケアシステムをどういうふうにしていくかを中心的に扱うように指示のようなものがありますので、現時点ではこの形にさせていただいています。ただ、我々の都市としてどう考えるかということ是可以しますので、その辺の事情をお含み置きいただければと思います。

【辻委員】

まさに治療より予防だという発想が後退している気がします。実は今、年収200万円以下で仕事をしている方は全国で1千100万人を超えていて、千葉市でどのくらいいるかは分かりませんが、そう言われています。そういう方々は、平均的なエンゲル係数で割り返すと、1日当たりの食費が1,300円弱なんです。そういう人たちにアンケートを取ってみると、栄養バランスは二の次で、とにかくお腹が膨れればよいと考えています。そういう生活をしている方は、当然のことながら、成人病の危険性がぐっと上がるので、そういう人たちの支援をどうにかしていないと、超高齢社会を迎えるに当たって、どんどん社会負担が増えていきます。そういう視点もどこかの戦略に入れていかなければならないと思っています。具体的には最低賃金を引き上げるくらいのことを、健康の側面からも考えておくべきだと思います。

【村館委員】

先ほど大庭委員から予防医学や公衆衛生に関するご指摘があったので、それに関連して紹介したい事例がございます。今年度から東京大学の情報学環と医学部の公衆衛生教室で、千葉市の医療と介護のデータ分析の共同研究が始まっています。国民健康保険に加入している市民の健康データを使って、市民の健康維持に資するような分析をしようとしています。コンピュータを使った機械学習という手法を使って、データを学習させて、例えば、将来ある市民の方が糖尿病になって腎不全になり、人工透析が必要になると1人毎年500万円がかかると言われていますが、

そういったことを予防するための研究ができないかという、千葉市と東京大学との共同研究が始まっていますので、紹介させていただきます。

【大庭委員】

それは千葉市がデータベースになっているということですか。

【村館委員】

その通りです。

【北村部会長】

栗飯原委員はこの重点戦略4については、よろしいですか。

【栗飯原委員】

資料に掲載したのは最近知った事例ですけれども、大阪府泉佐野市では、大規模な公園の整備に当たって、ハード整備にお金をかけずに、アクティブシニアの育成にお金をかけて、それを毎年やって、公園のレクリエーションや管理を任せているそうです。

シニアの方の活用には、元々プロフェッショナルの方の活用も考えられますが、子どもと接する機会など専門外のことに挑戦する方も多いと思いますので、その育成にも力を入れるべきだと思ひ提案させていただきました。

【北村部会長】

こういうのって皆ボランティアなんですか。

【栗飯原委員】

これはボランティアです。

【北村部会長】

いかがでしょうか。重点戦略4と5の辺りになると細かくたくさん書かれています。

【大庭委員】

シニアを育てるという発想は新しいですね。勉強したら若返ってしまうかもしれませんね。

【村尾委員】

千葉大学でけやきクラブというものがあり面白そうなので入ろうかと思っているので、教えてくださいませんか。シニアの方々が活発に色々なジャンルことをやられていて良さそうだと思います。

【北村部会長】

けやきクラブというのは、千葉大学の卒業生ではなくて、千葉市はじめ地域の方々が参加していて、総勢250名が15班に分かれて、歴史クラブ、語学クラブ、山歩きなど色々と活発に活動されています。千葉大学の中にオフィスを置いて、色々な場所も提供しています。その代わり千葉大学のメリットとしては、一部の授業でシニアの経験談を話していただいたり、授業にも参加していただくことがあります。すごい活発で、紆余曲折はありましたが、会長が熱心な方で、周りが盛り立ててやられているので、私は好きな会ですね。

【村尾委員】

65歳、70歳、75歳まで働くのもありますが、やはり自分の好きなこと、今までやりたくても出来なかったことを持っている人は、地域の中で自由に活発に仲間とやるのもすごく良いと思います。そういうことを醸成したり、その場を提供することもあるかもしれないと思いました。

【北村部会長】

重点戦略5に移ってよろしいでしょうか。「都市資源を活用し、ひととひととがつながるまちづくり」ということで、栗飯原委員はここに思い入れがありそうですね。

【栗飯原委員】

施策の1と3について提案させていただきました。1つめが、都市のコンパクト化と地域空間の形成についてで、空き家や空き団地、耕作放棄地などが、今後人口が減少するに当たって増えていくとされていますので、その活用として、現在行われている千葉大学の知の拠点の事業を拡大していくですとか、あとは、耕作放棄地では市民農園や有機野菜づくりの場とするなど、緑地としての活用ができるのではないかと思います。また、千葉市は海や谷津田があることが強みだと思いますので、その自然を高付加価値化することが必要だと思っていて、公園をプレイパークにしたり、保育園や幼稚園を自然豊かなところでできるようにして、環境教育を充実させることで、そういう教育に興味のある子育て世代が来ることも考えられると思いました。

施策3については、私の大学がある習志野市で、現在、公共施設再編のワークショップが行われていまして、それについて書かせていただきました。千葉市もこれから公民館やスポーツ施設、図書館などを統合する必要があると思いますので、早期からワークショップなどを行って、使用料金の値上げや、民間機能を導入するなどの検討を行って、反対運動が起こらないように、早めに手を打っていくことが必要ではないかと思いました。

【坂戸副部会長】

今お話いただいたように、私も規制緩和は必要だと思います。休日に色々なまちへ行くのですが、ベイトウンでは、ここでみんな間に合うんだと言う人がとても多かったのです。ベイトウンの中で完結する。日常生活が全部出来るということで、生活する上ではとても重要な要素だと感じました。

ただ、自由に駐車できるまちなので、日本の今までのまちと違って、道路の両側に停めて用事をしているようです。アクセスが不便だから車で行くのでしょうか。歩道もものすごく広いのですが、あんなに洒落ているのにビジネスに使われていなくて、例えば犬の散歩中に休憩や食事するといったことができていません。歩道は公共物だから規制があるのだと思いますが、やはりお洒落でない若者は呼べませんので、規制があれば、まち全体が協力して店を出すなど、今のご意見を聞いて思いました。素晴らしく良くできたまちだと思いますので、ぜひコンパクトシティと言いますか、そこで完結するような地域をいくつも作っていただいたらよろしいのではないかと思います。

【北村部会長】

戦略特区ではそのことを書いてあるのですか。

【稲生総合政策部長】

実は幕張につきましては、ベイトウンの住まいの地区と、センター地区、イオンのある拡大地区の3つそれぞれで、地元住民と事業者と協議会を立ち上げていて、戦略特区にも入っていますが、特区にならない段階でも、道路専用許可の特例を作れば物販飲食等ができますので、その取り組みを進めているところです。願わくは、さらにこの協議会がタウンマネジメント的のところまでいければ良いと思っていて、取り組みは始めているところです。

【大庭委員】

先ほど、習志野市で公民館や図書館を維持できなくなって統合しているという話がありました。千葉市でもそういうことはあるのですか。

【藤代政策企画課長】

実質的に統合という部分はさほどないのですが、施設を有効活用するために、例えば蘇我エリアで2つの施設を1つにすることは始めています。床面積がどの程度必要かについて、ニーズや周辺住民の数によってどうしていくかという検討を始めているところです。やはり公民館は地域に根ざして出来上がっているものですので、かなり慎重にしっかりとした議論が必要になると思っています。

【北村部会長】

しっかりとした議論は必要ですが、公民館が今後どうなっていくのかは考えざるを得ないですね。

【藤代政策企画課長】

公民館は、社会教育法の中で出来てきた経緯がございます。戦後から果たしてきた役割と、今の時代の中で果たすべき役割が変わってきたのは確かですので、教育委員会の中でどういう方向が良いのか議論を進めながら、ということになると思います。その中で住民がどのように関わるかですとか、公民館の運営審議会もございますので、色々検討していただいていると考えております。

【村尾委員】

96ページの具体的事業の中に、京葉線・りんかい線の相互直通運転の話がありますが、最新状況をお聞きしたいと思います。非常に期待していますし、今回のテーマに沿ってプラスになる話だと思っています。

【稲生総合政策部長】

結果的に、目に見える形には至っていませんが、ただ県もかなり乗り気になっています。千葉市は京葉線周辺都市をとりまとめていて、相互乗り入れをするためには、料金の収納について、東京駅を通った人とりんかい線を通った人が取れないという部分と、一方で、武蔵野線と京葉線がある程度ダイヤがいっぱいの中で、相互直通分をプラスする場合に、新木場から市川塩浜辺りの複々線化がどうかということもあります。要望活動はずっとしていますので、周辺都市と、料金の関係やどういう経路を通っているかについて昨年アンケートを行いました。ある程度ものを持って、より具体的に示していくことは進めているところです。

【村尾委員】

なぜお聞きしたかと言いますと、以前リクルートのスーモと話した時、東京から見て千葉がより住みやすいとすればどんなテーマがあるか尋ねたところ、答えの1つに、千葉と東京のアクセスがありました。あっと驚くシャトルのようなものがあれば、東京の人も、千葉は後ろに緑があって、土地が安くて、若い人が過ごしやすくなれば、もっと人が行くのではと言われました。パーソントリップ自体のどちらかと言うとネガティブな部分の解決に、公共交通は非常に大きな要素ではないかと思ったのでお聞きしました。

【稲生総合政策部長】

まさしく住まいとビジネスの意味で、アクセスは非常に重要な問題であって、ただ千葉県は半島で、総武線と京葉線のラインをさらにとというのはなかなか難しい中で、りんかい線との相互乗り入れであったり、幕張では新駅等はどうかということがあったりという中、これらを2020年東京オリンピックという時間軸の中でどうするかを今議論している状況です。

【辻委員】

96ページの具体的事業に「自転車走行環境の整備」とありますが、これは実現可能なんですか。

【藤代政策企画課長】

千葉市におきまして、自転車のまちづくりを推進していこうということで、現在進めているところです。確かにエリア的には自転車の走行環境が整っていないところがあるのは承知しておりますが、まずできるところからでも自転車レーンを作る、あるいは矢羽を書いたような形で自転車が通る空間を示すなどしているところです。先ほどコンパクトシティというお話が出ましたけれども、都市を集約していく中で、自転車というものが、公共交通のサブシステムとして使えるという考え方を持っていますので、我々としてはできるものだと思っていますし、進めていきたいと考えています。

【北村部会長】

重点戦略6に移らせていただきます。

【坂戸副部会長】

1つだけ質問したいことがありますので、教えてください。100ページでは、地域運営委員会設置地区数が現状は2地区あって、具体的事業ではこの設置を促進するとなっていますが、これはどんな組織でどんなことをやるものなのでしょうか。

【藤代政策企画課長】

地域の中に、自治会、青少年育成委員会、社会福祉協議会の地区部会など、様々な目的別の組織あるいはエリアを包括した団体がございます。それらを縦にまとめていただきまして、それぞれの団体に奨励金含め補助金等が交付されていますので、それらを地域運営委員会でまとめることで、地域で一番良い形で配分してもらい、地域づくりを進めていただこうと考えております。

【坂戸副部会長】

それは交付金の受け皿ということですか。

【藤代政策企画課長】

交付金は、地域の方々が自分たちの地域をつくっていただく上での奨励策ですが、基本的には、地域に住んでいる皆さんが目的別の団体でも集まっていいただいて、総合的な力を発揮して地域を良くしていただこうという考え方がベースになっております。ただ見かけ上は受け皿になっているのは確かなんだろうと思います。

【坂戸副部会長】

うまく動くといいですね。

【藤代政策企画課長】

なかなか簡単に行くものでもないと思っています。今2地区というお話を申し上げましたけれ

ども。やはり地域の中で意識を醸成していただくと、我々の方でしっかりと事業の説明をすることで、何とか増やしていきたいと考えています。

【坂戸副部長】

特に運営主体は考えておられないで、自然発生的に出てくるという意味なのですか。

【藤代政策企画課長】

地域の団体をまとめまして、そこに地域運営委員会を作っただけじゃないか提案しながら作っていくということです。自治会はエリアの中を包括している団体ですので、中心になる場合が多いかもしれませんが、どうしてもそこにとという形ではございません。

【北村部長】

この都市アイデンティティの確立が一番難しいと思っていて、具体的事業はどうしてもバラバラしています。何かうまくまとまらないかなとずっと思っていて、例えば、歴史として千葉市の今日までの発展を考えた時に、最初に加曾利貝塚があって、オオガハスや千葉氏が出てきて、それから漁業があって、軍都千葉があって、その後に川鉄をはじめとした京葉コンビナートという歴史があって、その一つひとつが残っていますといった形で、千葉氏や千葉神社などをPRしていかないと、ただ1つずつを出してもあまりピンと来ない感じがします。千葉のアイデンティティは何なんだと言われると、いつもちょっと弱いなと感じています。

【稲生総合政策部長】

アンケートを取ると、住んでみると非常に住みやすい、気候も温暖で、家も広めでなど多様性がある一方で、千葉市と言えば何というものがありませんでした。歴史を背景にした部分がこれまでなかなか無い状態でした。4つの地域資源の中でも、やはり千葉氏というものを、千葉市の興りとして、都市名にも受け継がれていて、全国に広がって新渡戸稲造など著名人も出ているルーツがこの千葉にあるということで、九州の方がよほど千葉氏の流れを大切にしているところもあります。改めて千葉市のルーツを提案させていただく形で、歴史軸をハードとソフトの中心に置く形で取り組みをしていきたいということです。来年は千葉開府890年ですので、千葉開府900年に向けた戦略プランも作っているところですので、そういう中で前期・後期と進めていきたいと思います。

【北村部長】

続いて、重点戦略7の「オリンピック・パラリンピック・レガシー」の創出について、いかがでしょうか。これは戦略特区も絡むことかもしれませんね。

【稲生総合政策部長】

そうですね。重点戦略2の部分であり、この7であり。

【北村部長】

第2回創生会議では、身障者の住みやすいまちという話の中で、バリアフリーのまちについて意見が出ていました。あれもパラリンピックのレガシーに関連することでしょう。ただ今日の新聞で東京都も何か発信していますので、千葉市だけの話では無くなってしまおうので、ぜひその辺りは強く押していただきたいと思います。

【稲生総合政策部長】

オリンピックとパラリンピック合わせて7競技を幕張メッセで行うという形になってきました。

その中で、幕張メッセを含めて競技会場周辺、駅からのアクセスなど、パラリンピックがあるからには、さらにバリアフリーの部分を求められると思います。具体的なスケジュールや規模感はまだ示されていませんが、必ず必要になってくると思っています。

【北村部会長】

栗飯原委員の資料中にある「障害者スポーツといえば千葉市」というのは、ぜひ強調したいですね。

【稲生総合政策部長】

ちょうど今年も来年のリオオリンピックに向けて、車椅子バスケット、ウィルチェアという車椅子ラグビーの予選をやりますので、障害者スポーツの取り組みは進めているところです。加えて、基本的に東京パラリンピックの会場は、東京と千葉のみという中で、市長が最近よく言っているのは、あくまでアスリートのスポーツであって、上から目線でなく、純粹にスポーツの感動も与えられる形で障害者スポーツを見るというような、ある意味で価値観の転換を理解していただく中で、会場をいっぱいにするということです。こういう形に向けて、やはり触れ合う機会と、障害者だけのスポーツ大会でなく健常者とともにスポーツを行うことに向けて、千葉市としても取り組んでいきたいと考えています。

【吉開委員】

重点戦略6と7は一体化できるのではないのでしょうか。7の「オリンピック・パラリンピック・レガシーの創出」が6の千葉市を知り好きになる仕組みにつながっていくのではないかと、特に障害者スポーツなどが挙げられると思います。栗飯原委員の資料がよく出来ているので、まずご説明いただいてから私の意見を述べたいと思います。

【栗飯原委員】

今、重点戦略6と7の関連について触れていただいたのですが、先ほど、「障害者スポーツといえば千葉市」にするという点で、私は市長が Facebook で車椅子バスケットや車椅子ラグビーに触れているのを見て興味を持って、それ以外にも自分の友達でも車椅子バスケットを見て感動したという Facebook の記事を目にする機会が多くありました。そういう中で、マスコミやSNSで流してもらって、一般の人が興味を持つ機会が多くあれば良いと思いました。

資料の8ページに書きましたが、「ローマ法王に米を食べさせた男」という本を読みまして、マスコミへの報道を戦略的にやっている事例を目にしました。千葉市にどういったアイデンティティがあるのか市民が分かっていない部分があると思うので、海外や地方のメディアに流して、外部から市民が再評価する仕組みを取っていかないと、若者も歴史にあまり興味がない人もいると思うので、障害者スポーツやエアレースなど今アクティブに行われていることをPRしていく必要があると思いました。特に障害者スポーツは千葉市も大きく打ち出している面だと思うので、海外との交流などでPRしても良いと思いますし、実際に子どもたちなど一般の人が体験することで見に行きやすくなるというのも、レガシーの1つではないかと思いました。

【吉開委員】

障害者が働きやすいまちというイメージを出すということで、千葉市を好きになることにつながると思いますし、障害者をきちんと雇用する環境をつくるということで、施策として難しいところは分かっており、中小企業を含めた各企業のご協力が必要だと思いますが、イメージ向上につながり、労働力の確保にもつながると思います。来年リオデジャネイロのパラリンピックがあ

って、東京オリンピック・パラリンピックの幕張での競技種目が決まっていますので、この機会を活かさない手はないというのが私の意見です。

【矢田委員】

今の吉開委員の意見の障害者の雇用について追加で発言させていただきます。千葉県内の障害者雇用率は全国と比べて非常に低くて、身体の方、知的の方、精神の方、その他の方のうち、特に身体障害者の方が県内で就職せずに東京などへ通っているようで、理由の一つには賃金が高い事業所が多いからだと思います。確かにオリンピック・パラリンピック・レガシーということで、栗飯原委員の資料にあるように、意識の醸成が非常に大事だと思いました。特にハードがどんなに整備されていても、そこを使う人たち、例えば千葉駅前の道路は広いのですけれども、人が多すぎて車椅子の人は恐縮しながら進んでいる様子が見えて、実際に車椅子の方が使いやすいハードになっているかというとなかなか厳しいかなと思います。また、バスには車椅子を乗せるための装置があったのですが、なかなか装置が出てこないで、乗客が苛々しながら、乗務員の方の作業を見つめていて、車椅子の方が非常に恐縮されているのを見かけたりもします。ハードを整備していても、それを使う人の意識がまだ醸成されていないと感じましたので、ぜひパラリンピックをきっかけに、なかなか目に見える形は難しいかもしれませんが、そういった意識が醸成されることを期待したいと思いました。

【遠山委員】

前回に引き続きバリアフリーの話をしたと思いますが、今、都内では2020年に向けて、地下鉄を中心にかなりバリアフリーの工事をしていますね。今回の施策にはまだ盛り込まれていないという認識でおりますけれども、ぜひバリアフリーと多言語化も含めてやってもらいたいと思います。幕張エリアだけではたぶん駄目で、千葉県では成田から動線がありますので、バリアフリーの地域連携や広域連携の旗振り役をぜひ買って出てもらいたい。千葉県がやるでしょうけれども、県より先に手を挙げて、各市町村をまとめて、さすが政令市と言われるような動きをしてもらいたいと思っています。

先ほど吉開委員から、重点戦略6と7の一体化の話がありましたが、私は6の後半は市役所の日常的な行政サービスが混じっている気がして、盛りだくさんの内容になっているので、すべてとは言いませんが、入れなくても良いのではないかと思います。

【村尾委員】

例えば、これを（この総合戦略を）国の中央官庁で見られた時、千葉市がどういう印象で残るか考えると、7つめの視点（重点戦略）は東京都以外には無いでしょう。なぜこれが7番目にあるかと思いました。もっと尖ったもの、特別に印象的にしようとするならば、7つめには、インバウンドやMICEの推進など千葉を特徴付けるものがありますし、加えて留学生の活用や、今後の外国人就労者の増加にも比較的大らかであるということも含めて、一番前に持って来れば、ものすごく印象が強くなるのではないかと思います。

【遠山委員】

千葉県が実はそういう仕立てにしています、戦略1がオリンピック・パラリンピックになっていて、戦略2がその他一般的なものになっているので、似てしまうのはどうかとお考えになったのだらうと思いますが、違いますか。

【藤代政策企画課長】

最後にしたというわけではないのですが、柱立てとしますと一番のメインは重点戦略1だと我々は本当に思っています。6と7は実際どの都市でもやっていることでないのは十分承知しているところで、ただ性質上、我々が取り組まなければならない行政課題、かつ、まち・ひと・しごと恒常的に効いてくるのは2～5ということで、5は性質上違うものが入っていますけれども、そのように整理させていただきました。ですから、付け加えの意味ではなく、色づけをする意味でのオプションが6と7であるという考え方で1～7までを、現時点では構成させていただいております。

【大庭委員】

1～5までが戦略の部分であれば、6と7は戦術の部分ということですね。

【藤代政策企画課長】

いわば、そういうふうになると思います。

【北村部会長】

絵を描くときに少し分けた方が良いでしょう。千葉県版総合戦略を見ると、1つめに「東京オリンピック・パラリンピックを契機とした『世界中から人々がやってくるCHIBA』づくり」が来ていますが、これが良いかどうかは難しいところで、どうして一番初めに東京オリンピックが出てくるかと正直思っていました。ただ千葉県版の総合戦略は2つのうちの1つだから良いかもしれませんが、千葉市のように7つのうちの一番トップだと、やはりちょっと引っかけます。ですから、書き方としては、違うものだと分かるように出すべきかもしれません。

【大庭委員】

オリンピック・パラリンピックを意識しなくとも、戦略として出すとすれば、例えば、障害者や子育てに非常に優しいまちというものであれば、十分戦略に出来ると思っていて、きっかけの1つがパラリンピックという整理の方がしやすいのかなと思います。

もう1つは、我々健常者が障害者のサービスを一方的に考えていても仕方がないのかなという気がします。障害者の方がどういうことに利便性を感じるか、何をしてもらいたいかを、我々は想像しているだけなんです。障害を持った子どもの親もたぶんそうだろうと思います。ですから、ここで議論するのと並行して、実際にハンディキャップを持っている方々が何を期待しているのか、何を希望しているのかを聞く。と言いますのは、オリンピックは商業ナイズされていて、放送権料も取れるし、お客さんも呼べるので、応援は団体ぐるみで連れて行ってくれます。ところがパラリンピックはそれが非常に寂しいものでして、費用が出ないので、選手が優勝しても家族は応援に行けず、ボランティアに委託するしかありませんでした。そうした面もよく見て、もし海外からパラリンピックの選手が来た時には、皆さんが格安で泊まれる場所を提供するなど、我々が見えない希望がずいぶんあると思うので、お仕着せにならないようなことを、もっともっと考えていかなければならないと思います。

【村館委員】

オリンピックの話に関連しまして、千葉には東京で引き受けられない魅力を引き受けられるような都市としての特徴があるという考え方の意見を述べさせていただきたいと思います。オリンピックもパラリンピックもそうですが、テコンドー、フェンシング、レスリングの会場に幕張メッセが選ばれたというのは、東京では引き受けられないことを千葉ではできる可能性があるのだ

と思います。例えば、東京も一極集中には限界がありまして、高齢者を若葉区のCCRCなどで受け皿になるとか、あるいは市長がイクメン・イクボスに積極的な都市というイメージがあるとか。東京では受け入れられないような魅力の受け皿になるという発想で、埼玉や川崎にはない政策を今後も活かしていただけると有難いと思います。

【北村部会長】

まだまだご意見はあると思いますけれども、時間が無くなってしまいました。今回は時間を長くしてもらいましたが、まだ足りませんので、委員の方々から事務局に自由に意見をまとめて送っていただくようにした方が良いと思いますね。委員の方々には言い足りないことがあれば、どんどんメールで出していただければと思います。意見交換はここまでとしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

【委員一同】

(異議なし)

(3) 今後の進め方について

【北村部会長】

それでは、今後の進め方について、大幅な変更がありますので、事務局の方から説明をお願いいたします。

【藤代政策企画課長】

お手元に資料を用意させていただきました。大幅に変わる部分、第4回を追加させていただきたいと考えております。12月中旬に調整という形で、内容的には、人口ビジョンの中で積み残しになっております、行政区別の人口推計と、市民等の意識調査の中間報告的なものを行わせていただき、そこでご意見をいただきたいと考えております。その中で本日積み残しになる部分があれば意見交換を考えさせていただきたいのですが、何分当初は予定しておりませんでしたので、可能な限り皆様方がお集まりいただける時間を調整させていただきますが、ご出席いただけない場合には、ペーパーなどの提出でご勘弁いただきたいと考えておりますので、この形で進めさせていただきたいと思っております。

加えて、前回、若い人たちの意見を聞いてはいかがかという話を頂戴しましたので、集合してのインタビューあるいは若い人たちにディスカッションいただいて意見を吸い上げるような取り組みを追加的に行わせていただこうと思っております。これを12月中に開催する予定でございます。結果については、おそらく第5回で報告させていただくわけですが、もし実際に見てみたい、参加してみたいというお話があれば、検討させていただきますので、また改めて事務局からメールなどで連絡させていただきと思いますので、よろしく願いいたします。

急遽のお願いでございますので、夜は皆様方お忙しいことは十分承知しておりますので、色々ご相談させていただければと思います。申し訳ございません。

【北村部会長】

今後調整が入るということですね。

(4) その他

【北村部会長】

次に、「その他」ですけれど、事務局の方で何かございますか。

【藤代政策企画課長】

議事録については早々に作成いたしまして、通常通りメール等でやり取りをさせていただきながら確定させていただきたいと思っております。最終的には部会長にご確認をいただいて、確定という手続きを取らせていただきますので、よろしくお願いいたします。

【北村部会長】

ではそういう形で議事録も確定させていただくということで、よろしいですね。

【委員一同】

(異議なし)

3 閉会

【北村部会長】

その他に何かございますか。もしなければ、これを持ちまして、本日の会議は終了とさせていただきます。長時間にわたり、どうもありがとうございました。

以上